

埼玉大学創立 70 周年記念式典 学長式辞

今朝、創立 70 周年の記念フラッグがはためく埼玉大学の構内は、行く秋の日差しに映えた紅葉の木々と、落ち葉のちりばめられた歩道とが調和し、その美しさを醸し出していました。本日、この良き日、ここに埼玉大学創立 70 周年記念式典を挙げていくことは、私たち埼玉大学に関わるすべての人々にとって誇りであり、皆さまとともに慶びたく思います。そして、ご多忙の中ご臨席賜りました文部科学省 文部科学審議官 山脇良雄様、埼玉県知事 大野元裕様、国立大学協会会長・筑波大学長 永田恭介様をはじめ、多くのご来賓の方々、すべての皆さまに心よりお礼申し上げます。

70 年前の 1949 年 11 月 3 日、埼玉大学は開学式を執り行いました。旧制浦和高校を母体とする文理学部と埼玉師範学校および埼玉青年師範学校を母体とする教育学部の 2 学部を、異なるキャンパスに配置し、入学定員 1,200 人でのスタートです。爾来 70 年の歴史を辿り、いくつもの分岐点が繋がった埼玉大学の時間軸は、紆余曲折に今に至ります。現在は、教養、経済、教育、理、工の 5 学部と人文社会科学、教育学、理工学の大学院 3 研究科から成り、入学定員は 2,157 人にまで増えています。そして、これまでの埼玉大学卒業生は 86,622 人に及び、2015 年ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章さん、2016 年文化功労者の妖怪文化研究者 小松和彦さん、2017 年日本芸術院会員の画家 根岸右司さんをはじめ、学術、文化、芸術分野のみならず、それぞれの場で多様に活躍する多彩な同窓生が数多く続いています。

埼玉大学のすべてが集まる現在のキャンパスには 50 年前に移転し、1970 年頃からこの地で講義が始まっています。私は 1971 年に入学、大学生としての 4 年間を埼玉大学で過ごしましたが、当時のキャンパスは、緑といえば僅かな原生林だけで、大学と北浦和駅をつなぐバスが構内を発着するなど広々とした、しかしやや殺風景なものでした。それが今や、四季折々に美しく緑豊かな、私の大好きなキャンパスになっています。これは、私の恩師であり、第 5 代学長である岡本舜三先生が、40 年前に植えた木々が育ってできたものです。このことは、時の流れという時間軸の重みと、初動という時間軸原点の大切さを教えてくれます。

埼玉大学としての時間軸原点、初動を振り返って見ることにします。『埼玉大学五十年史』によれば、1949 年、新制国立大学として創立した埼玉大学の目的と使命は「広い教養と深い専門学術を備え、知的、道徳的、応用的能力を有する人材を養成する」ことでした。そして、「学問の理想の上で明徴なる普遍性を有し、学園の個性的情趣において郷土色豊かな大学の道、これを進む」とされています。また、新関良三 初代学長は、「謙虚であって気品高く、卑怯と虚偽を排し、たくましく進むであろう諸君の姿を望見することは、我々の、何よりも大きな歓喜である」と、新入生を激励したとされます。これらの、言わば建学の精神、校風、学生気質は、70 年経った今も脈脈と引き継がれているように思います。

まず、学問的普遍性を有し郷土色豊かな大学、という「建学の精神」です。これは現在の大学ビジョンである「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉～多様性と融合の具現化」につながります。文系、理系、教育系の多様な学問が集約され、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が 1 つのキャンパスに集う埼玉大学。知の府としての基盤強化と、首都圏埼玉という地域に根ざした個性化とを 2 軸として、一層存在感を増します。

次に、謙虚で気品高く、卑怯と虚偽を排してたくましく進むという校風、学生気質です。都会の喧噪から離れたキャンパスで真摯に学修にいそしむ「埼大生」と接するにつけ、また、梶田隆章さんのような同窓生の活躍を目にするにつけ、謙虚さ、気品、誠実さが DNA として受け継がれていることを強く実感します。

「つなげよう未来へ」。これは創立 70 周年のキャッチフレーズで、本年 3 月に教養学部を卒業した上村真由さんの作です。このフレーズに込めた彼女の思いは、「あらゆる立場の人をつなぐ架け橋であることが埼玉大学の魅力。たとえば、留学生と日本人学生、同窓生と現役学生、地域の人と埼大生がつながっています。この 70 年間の人と人の心をつなぐ役割を未来へつないでほしい。」というものです。埼大生ならではのメッセージと捉えたく思っています。

『埼玉大学五十年史』を受け、その後の 20 年を振り返れば、国立大学にとって大きな転換がありました。それは 2004 年の国立大学法人化です。国の行政組織から切り離された独立機関となり、運営上の裁量は大幅に拡大した反面、経営的側面が強調されるようになって、大学のあり方が大きく変わりました。そして、今後も、少子高齢化、Society 5.0 時代などの急激な社会変革に対応して、国立大学はその将来のあり方が問われ続けます。

それでも、知の府である大学のミッションは研究と、研究に基づく教育や社会・地域貢献で、変わることはありません。大学を特徴付けるのも本来的には、大学でどんな研究が進み、どんな知が集積されているかです。埼玉大学での研究も時間軸上脈々とつながり、今があります。創立 70 周年記念として出版した「埼玉大学研究マップ」はまさに今、埼玉大学にいるすべての研究者が進めている多様な研究を結集したものです。

研究者は専門を究めようと自分のテーマをどんどん掘り下げます。とても大切なことです。しかし、科学界では、専門ごとの「知識のための科学」から学際的な「未来のための科学／社会のための科学」に変化する潮流が起きています。社会的課題に対しては上下方向だけではなく、全方位的に水平方向に気を配る知も必要です。つまり、将来の予測が難しいこれからの不確実社会にあって、SDGs：持続可能な開発目標など、人間社会の幸せを求めるには多様な専門家の知を結集しなくてはなりません。その際に、水平に広がる「埼玉大学研究マップ」が役立つことを願っています。

埼玉大学は、多様な人、多様な学問が 1 つのキャンパスに集まる知の府です。創立 70 周年の標語「つなげよう未来へ」の精神にあるとおり、あらゆる人、あらゆる学問をつなぐ架け橋として、地域に根ざし、世界とつながり、その歴史を未来へつないでいきます。そして、学究を基とした「知のプロフェッショナル」集団として、これからの知識基盤社会に大いに貢献します。

最後に、本日ご臨席の皆さまをはじめ、埼玉大学を支えて下さっているすべての皆さまに心から感謝申し上げますとともに、これからも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私の式辞といたします。

令和元年 11 月 29 日

埼玉大学長 山口宏樹